

## 『依存症』

理由を言えと言われても、寂しいからだなんて言いたくない。

止めればいいと言われてたら、強がってしまうから聞きたくない。

本心を隠すのは格好つけたいわけじゃなくて、認めてしまえば本当になりそうだから。

一日の何割かをその為に使って、いつしかその為に毎日のほとんどを捧げて。

こんな世界でも独りぼっちじゃないと、たった一人きりで確かめて。

不器用に削られていびつな心の鍵穴には、真実の見えない鍵だからこそ滑らかに入る。

つらつらと並べるのは嘘じゃなくて、それはつまり何よりも願ってる本音の結晶で。

タイムマシンは売られてないし、空を飛ぶ魔法も叶っていないけど。

それは現実の中に確かにある幻想で、現実を生きる理由になっている幻想で。

だから何も知らずに何かを知ったように言わないで欲しい。

私が現実から目をそらすのは、他の誰よりも現実を生きていく為なのだから。